

## <ポイント版> ぎふ経済レポート（令和5年10月分）

### 【製造業】

○製造業は、8月の鉱工業生産指数は前月比▲3.1%となった。ヒアリングでは、円安や生産回復により売上が増加しているとの声や、価格転嫁が認められやすくなってきており、過去の電気代高騰分まで転嫁を認めるメーカーがあるとの声が聞かれた一方で、中国や欧州の景気減速により、工作機械分野や建設機械分野の受注が減少しているとの声や、自動車のEV化による製造部品の減少が与える業績への影響を懸念する声が聞かれた。

### 【地場産業】

○地場産業は、8月の鉱工業生産指数は、木材・木製品及び食料品で低下した。ヒアリングでは、インバウンド需要で受注が好調であるとの声や、価格転嫁や円安の効果で売上や利益が増加しているとの声が聞かれた一方で、ガス料金の値上げや円安による輸入コストの上昇などにより、生産コストが上昇し利益が押し下げられているなか、価格転嫁が不十分なため、今後も値上げを行わなければならないとの声が聞かれた。

### 【設備投資】

○設備投資は、9月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比▲11.2%となった。ヒアリングでは、インボイス制度に対応した設備や人手不足に対応する設備導入、老朽化に伴う設備更新を行ったとの声が聞かれた一方で、経営状況の悪化により大規模な設備投資は控えているとの声や、自動車のEV化の先行きが不透明であるため、今後の投資計画を見合わせているとの声も聞かれた。

### 【個人消費】

○個人消費は、9月の販売額は、ドラッグストア、コンビニ及び家電大型専門店で前年同月比で上昇し、全体で同3.0%上昇となった。ヒアリングでは、生鮮食品スーパーの売上が好調との声やファッション店舗で売上が回復傾向にあるとの声が聞かれた一方で、仕入価格の上昇により、店舗によっては事業継続に懸念があるとの声が聞かれた。

### 【観光】

○観光は、9月の観光客数、宿泊者数はコロナ前の令和元年同月比▲15.9%、▲14.6%となった。宿泊施設からのヒアリングでは、インバウンドの動きが好調との声が聞かれた一方で、物価高騰により経営を圧迫しているとの声や、人材不足が深刻化しているとの声が聞かれた。

### 【資金繰り】

○企業の資金繰りは、9月の制度融資実績は、8ヶ月連続で金額が増加した。金融機関からは、受注が増加傾向にある製造業では、運転資金の需要が高まっているとの声が聞かれた一方で、設備資金は軟調に推移しているとの声や、物価高騰により、倒産に追い込まれる企業が増えてきているとの声も聞かれた。

### 【雇用】

○雇用面は、9月の有効求人倍率は1.56倍と24ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、IT人材が不足しているとの声や、価格転嫁が不十分なため賃上げができず、新卒採用難や離職に頭を悩ませているとの声、更には、技能実習制度の見直しにより転籍が認められると、他社への人材流出が起こり、ますます人材確保が困難になるとの声も聞かれた。

### 【景気動向】

8月の景気動向指数（一致指数）は前月比▲0.6ポイント、9月の中小企業の景況感と同横ばいとなった。